船橋市習志野台公民館講演会

習志野原人物伝

千葉県立中央博物館大利根分館　主任上席研究員　佐藤　誠（せい）

〈明治〉

明治天皇

（めいじてんのう）

明治６年　大和田原にて初の近衛兵による大演習を行い統監する。
この後、大和田原を習志野原と命名したとされる。

西郷隆盛

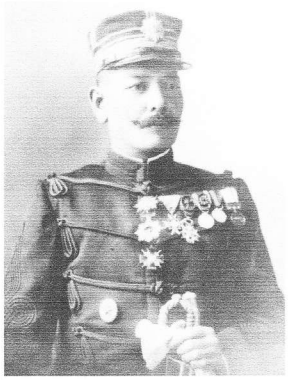
（さいごうたかもり）

明治６年、明治天皇からの信任厚く近衛都督（長官）として、明治天皇と共に演習に参加した。この後、征韓論が元で政府から離れて薩摩に戻り西南戦争を起こした。

篠原國幹

（しのはらくにもと）

薩摩藩出身。明治６年の大演習で司令官（少将）を務め、その指揮が素晴らしかったことから、明治天皇から賞賛された。後、西郷隆盛と共に政府を離れた。



秋山好古

（あきやまよしふる）

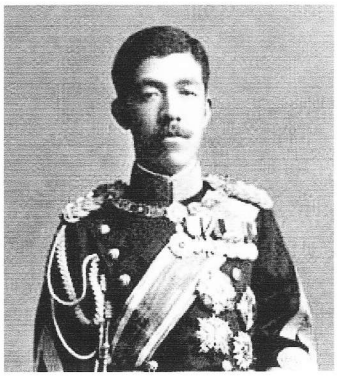
明治３６年、騎兵第一旅団の旅団長として着任。「日本騎兵の父」と呼ばれる。近代騎兵の育成に尽力し、日露戦争では日本騎兵の有能ぶりを世界に知らしめた。

閑院宮載仁親王

（かんいんのみやことひとしんのう）

明治34年～37年　騎兵第二旅団長として日露戦争に参戦。後、参謀総長、陸軍元帥。

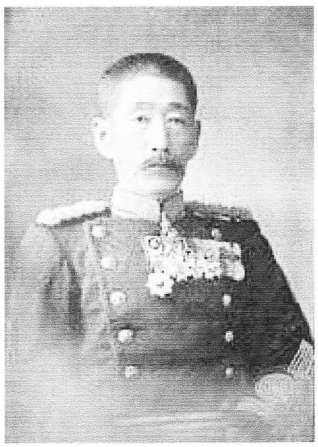
〈大正〉



大正天皇

（たいしょうてんのう）

皇太子時代から、習志野原の大演習に参加し、天皇となった後も、習志野原で演習を統監された。

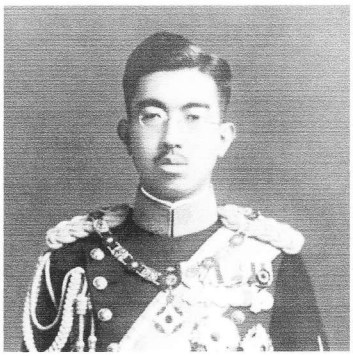


西郷寅太郎

（さいごうとらたろう）

西郷隆盛の嫡男。陸軍大佐。第一次世界大戦で捕虜となった中国青島に駐留していたドイツ海軍の兵士を受け入れる習志野俘虜収容所長となる。所長任期中に世界的に大流行したスペイン風邪となり、死去した。

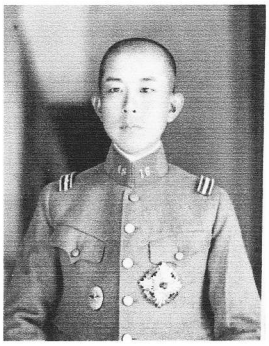
〈昭和〉



昭和天皇

（しょうわてんのう）

皇太子時代から習志野原の演習に参加しており、天皇となられた後も、度々視察にいらしている。



閑院宮春仁王

（かんいんのみやはるひとおう）

昭和7年～9年　騎兵第十六連隊中隊長

閑院宮載仁親王の子息。

三笠宮崇仁親王

（みかさのみやたかひとしんのう）

昭和天皇の弟宮。現在97歳になられる。

上等兵として入隊し、下士官を経て士官学校へ。騎兵学校で通信を学ぶ。

昭和９年　第十五連隊附士官候補生

昭和13年　第十五連隊中隊長職務心得

賀陽宮恒憲王

（かやのみやつねのりおう）

昭和１１年～１２年

騎兵第十六連隊連隊長

昭和１５年～１６年

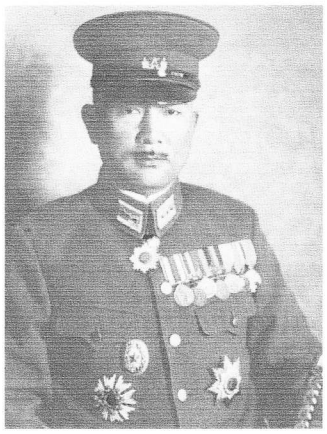
騎兵第二旅団長

野球への造詣が深く、戦後は「野球の宮様」と称された。

愛新覚羅溥傑

（あいしんかくらふけつ）

日本の満州建国により皇帝となった清朝皇帝溥儀の弟。嵯峨侯爵家の浩と結婚し、千葉市稲毛に新居を構えた。陸軍士官学校、陸軍歩兵学校で学び、習志野原にも訪れている。



栗林忠道

（くりばやしただみち）

昭和１５年　騎兵第二、第一旅団長として勤務の後、大東亜（太平洋）戦争末期に硫黄島守備隊の司令官となり、島と共に運命を共にする。

映画「硫黄島からの手紙」で俳優渡辺謙が演じた。

西竹一

（にしたけいち）

男爵家の嫡男として生まれ、アメリカ通で知られる。昭和７年、騎兵第十六連隊付き中尉となりロサンゼルス五輪で、日本人初の馬術金メダリストとなる。その功績により当時のロサンゼルス市長より、名誉市民章が贈られた。大東亜（太平洋）戦争末期、戦車第二十六連隊長として硫黄島に着任。島と共に運命を共にした。薬園台の騎兵学校厩舎には愛馬「ウラヌス」が余生を送っていた。